

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」

平成20年度受賞者決定のお知らせ

財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団では、昨年、スポーツ振興に多大な実績と功績を残し、社会に貢献された人を表彰する「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」を設置しましたが、この度、平成20年度(2008年)スポーツチャレンジ賞功労賞、奨励賞受賞者を決定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

尚、受賞者の功績を称える表彰式を2009年3月27日(金)に日本青年館(新宿区)にて行います。報道関係の皆様には、ぜひこのスポーツチャレンジ賞表彰式にご臨席賜りますようお願い申し上げます。

記

【ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 平成20年度受賞者】

◆功労賞 : 中野政美(北海道立旭川南高等学校柔道部元監督)

主な選考理由 : 女子柔道の世界レベル選手の育成及び、地域における柔道の普及発展への功労

推薦者 : 北海道新聞運動部

◆奨励賞 : 丸山弘道(車いすテニス日本代表コーチ)

主な選考理由 : 車いすテニス国枝慎吾選手の世界N01獲得及び、車いすテニス日本代表チームを北京パラリンピックでの活躍に導いた指導努力に対して

推薦者 : 財団法人日本障害者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

※ 表彰対象者選考方法について

昨年11月14日(金)～12月5日(金)の期間、候補者の公募を実施し、大学、競技団体、メディア、ジャーナリスト他からの推薦によりリストアップされた候補者の中から、選考事務局による候補者選考会、選考委員会による候補者決定審査と2段階の審査を実施し、当財団理事長の承認を経て決定いたしました。

【平成20年度表彰式】

■ 日時：2009年3月27日(金)午後3時30分より(受付2時30分より)

■ 場所：日本青年館(東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号)

※表彰式当日は、中野政美氏の受賞に対して、柳沢久様(三井住友海上女子柔道部監督)ならびに上野雅恵選手(三井住友海上女子柔道部)が、また丸山弘道氏の受賞に対して、国枝慎吾選手(車いすテニスプレイヤー)が、祝辞を行う予定です。

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

■ (財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)事務局：担当・河邊 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地

■ Tel.0538-32-9827 Fax.0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>

■ ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞について

スポーツを通じて自己の夢の実現に向かってチャレンジする人々を応援する YMFS では、スポーツ界において多大な実績と功績を残し、スポーツを通じて社会に挑戦することの尊さやチャレンジスピリットを喚起し、社会活性に貢献する人を対象としてスポーツチャレンジ賞を制定しました。

このスポーツチャレンジ賞は、スポーツの競技者を始め、指導・研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツの幅広い分野において、自己の目指す目標に立ち向かい、自分自身を磨き上げたその人の『チャレンジ』そのものを称え、その努力のプロセスと成果に敬意を表するものです。また指導者やトレーナー等にもスポットを当てることでチャレンジの意義を社会に知らしめ、新たなチャレンジの創出もその目的のひとつとしています。

■ スポーツチャレンジ賞功労賞とスポーツチャレンジ賞奨励賞について

スポーツチャレンジ賞は、現在のスポーツ普及・振興の礎となった長年もしくは過去のチャレンジに対する「功労賞」と表彰年度ごとに世界トップレベルの成果を生み、今後さらなる成長を期待される短期的、中期的なチャレンジに対する「奨励賞」の2部門があります。いずれの賞においても、これまで注目を浴びることが少ないものの、本来は高く評価されるにふさわしいチャレンジを表彰します。

	功労賞	奨励賞
各対象となるチャレンジ	長年にわたるスポーツ振興への貢献や過去の先駆的実績を誇るチャレンジ	今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待される、その年、極めて高い成果を上げたチャレンジ
表彰対象者	既に優れた成果を上げ、功を成した人物	その年、高い成果を上げ、今後更なる成長が期待される人物（チャレンジ発展途上人）
評価のポイント	長年もしくは過去に行われ、年数を経てから高い成果と認められた尊敬に値する礎的、先駆的なチャレンジであること。 例えば、指導者、研究者、審判、ジャーナリスト、カメラマンなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽力したチャレンジなど	短期的、もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を受けた賞賛に値するチャレンジであること。 例えば、指導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジャーナリストなどによる世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど。
賞金及び副賞	賞金 100 万円（チームの場合は 200 万円） 賞状・メダル	

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 選考委員

・選考委員長 浅見俊雄 東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授*

・選考委員（*の選考委員は選考事務局兼務）

西田善夫 NHK 元解説委員・スポーツアナリスト*
 加賀谷淳子 日本女子体育大学名誉教授*
 福永哲夫 鹿屋体育大学学長・東京大学名誉教授*
 伊坂忠夫 立命館大学理工学部教授
 景山一郎 日本大学生産工学部教授
 草加浩平 東京大学大学院工学系研究科特任教授
 篠原菊紀 諏訪東京理科大学共通教育センター教授
 寒川恒夫 早稲田大学スポーツ科学学術院教授
 吉田茂 筑波大学人間総合科学研究科教授

綿貫茂喜 九州大学大学院芸術工学研究院教授
 ヨーコゼッターランド 元バレーボール選手、指導者*
 今給黎教子 海洋スポーツインストラクター・冒険家*
 村田互 ラグビー7人制日本代表監督*
 大坪豊生 ヤマハ発動機株式会社取締役
 鈴木正人 ヤマハ発動機株式会社取締役
 岸川善次郎 ヤマハ発動機スポーツ振興財団事務局長*
 (敬称略)

■ 平成 20 年度受賞者紹介ならびに選考理由について

スポーツチャレンジ賞 功労賞 中野政美



プロフィール

1944 年北海道生まれ 64 歳

旭川竜谷高校、天理大学を経て、1967 年に旭川南高校（保健体育）に赴任。以来 40 年にわたり柔道部監督として選手を育成。インターハイや全国大会への出場。またアテネ、北京五輪で金メダリストとなった上野雅恵選手を始め、数多くの女子柔道選手を輩出し、旭川における柔道の普及、発展に貢献。現在は母校、旭川竜谷高校にて柔道の指導にあたる。

受賞理由＜女子柔道の世界レベル選手育成と女子柔道の発展＞

北海道立旭川南高校の柔道部監督として、約 40 年にわたり男女選手を指導。特別な練習環境や有望選手のスカウトといった強化手法を持たない中で、長年にわたる地道な指導で同校を全国レベルの有力校に育て上げた。また、近隣地域の中高生指導にも積極的に取り組むなど、旭川市の柔道振興に長年にわたり力を注ぎ、柔道強国・旭川と呼ばれる現在の礎を築いた。こうした一意専心の指導の中から、同校卒業生の恵本裕子選手がアトランタオリンピック女子柔道 61kg 級で金メダル、上野雅恵選手がアテネ、北京オリンピック女子柔道 70kg 級で 2 大会連続の金メダルを獲得したのをはじめ、佐藤愛子選手も北京オリンピック女子柔道 57kg 級で 7 位に入賞するなど、3 大会にわたり 3 人の教え子が日本代表としてオリンピックに出場。長期的な視点での育成・強化を実践し、地域のユース世代から国内トップレベルへの橋渡し役として多数の強豪選手を輩出してきた。「私の指導は、新入生に柔道の魅力を伝えることから始まる」という言葉どおり、部員の多くは高校から柔道を始めた未経験者。そうした中から、恵本選手をはじめとするトップ選手も生まれてきた。自らの信念として掲げる「一生懸命」という言葉の意味と精神を生徒に伝えるために、約 40 年もの長い間、常に道着を着込んで部員と組み合わせながら指導を続けてきた“真心の指導”とその成果に対してスポーツチャレンジ功労賞を贈呈する。

スポーツチャレンジ賞 奨励賞 丸山弘道



プロフィール

1969 年 11 月千葉県柏市生まれ 39 歳

玉川学園高等部を経て明治大学卒業後、一般企業に 4 年間勤務。その後財団法人吉田記念テニスセンターにてジュニア担当コーチとして選手を全国トップレベルに育成。同時に車いすテニスコーチとして、シドニーパラリンピック代表の山倉昭雄氏を筆頭に、世界ランキング 4 位の齋田悟司選手、世界ランキング 1 位の国枝慎吾選手のコーチを担当する。2003 年のワールドチームカップより車いすテニス日本代表コーチ。

受賞理由 ＜北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ＞

アテネパラリンピックで齋田・国枝ペアがダブルス優勝を果たした後、北京パラリンピックでの金メダルチャレンジをスタートし、車いすテニスの齋田選手、国枝選手、八笥選手などのコーチを担当。北京に向けた強化プログラムを作成し、スピードとパワーに傾倒するテニス界のトレンドを想定して、当時成長の著しい国枝選手には、選手生命に関わるグリップ変更を行いスピードとパワーを強化。また日本人車いすトッププレイヤーとして活躍してきた齋田選手に対しても、実力を安定して発揮できるよう、長所を伸ばすトレーニングを指導し、レベルアップを図る。4 年間という短期間の中で、技術と精神の両面において個々の選手の自発的な成長を促しながら、日々の地道な練習の積み重ねにより、国枝選手は 2007 年に男子車いすテニスにおいて史上初の年間グランドスラムを達成する。また翌年に行われた北京パラリンピックでは国枝選手がシングルス優勝。齋田選手と組んだダブルスでは 3 位を獲得。さらに齋田選手は 2003 年に続き 2008 年も ITF プレーヤーズアワードを受賞した。このような結果、国枝、齋田選手を中心とする日本代表チームは車いすテニス界において強豪国の一国として認知されるまでに至った。この限られた期間での日本代表チームのレベルアップ、そして金メダル獲得というチャレンジ成果は、コーチの立場から指導してきた丸山氏のたゆまぬ努力抜きには語れず、その貢献は絶大であり、よって、スポーツチャレンジ奨励賞を贈呈する。